

県民経済計算のしくみ

1 県民経済計算とは

(1) 県民経済計算の目的

県民経済計算とは、国民経済計算体系の概念を、富山県という行政区域に適用し、県内の1年間の経済活動の結果、新たに生み出された価値（付加価値）を「生産」「分配」「支出」の三面から計量把握することにより、県経済の実態を包括的に明らかにし、総合的な県経済指標として利用されることを目的として作成されているものです。

(2) 県民経済計算でわかること

県民経済計算から、以下のような県経済の特徴を読み取ることができます。

- ① 「生産」面から 経済成長率、経済規模、産業構造 など
- ② 「分配」面から 所得水準（1人当たり県民所得） など
- ③ 「支出」面から 需要構造 など

(3) 三面等価の原則

経済活動をそれぞれの面から見ると次のとおりです。

① 生産面

製造業、サービス業などの各産業は、労働力、機械・設備、原材料等を投入し、生産活動を行います。この生産活動によって得たモノ・サービスの生産額（産出額）から原材料費等（中間投入）を除いたものが「付加価値」（総生産）となります。

② 分配面

生産活動によって生み出された付加価値は、そのすべてが家計、企業、政府に賃金、利潤、利子、税等として配分されます。

③ 支出面

分配された所得は、家庭や政府などで最終消費され、企業などでは設備投資などに使われます。

このように、県民経済計算の体系は1年間で生み出された付加価値を生産・分配・支出の三面からとらえたもので、理論的にはこれらは一致します。これを「三面等価の原則」といいます。（実際には推計資料の制約上の問題や推計方法の違いから必ずしも一致しないため、統計上の不突合という項目で調整しています。）